

令和5年度全国なぎなた指導者研修会



全参加者による中学校武道授業指導実践（1日目）

令和5年度全国なぎなた指導者研修会〔主催＝日本武道館・全日本なぎなた連盟、後援＝スポーツ庁〕が、11月24日（金）から26日（日）の3日間、千葉県勝浦市の日本武道館研修センターにおいて、参加者55名が出席して実施された。

本研修会は、全国でなぎなたを指導する中学、高等学校の教員及び社会体育指導者を対象に、我が国の伝統と文化に立脚した理論と実技の研修会を実施し、「なぎなた」の理解を深め、専門的な知識・技術・指導法の充実を図り、もって全国的な、なぎなた指導者の養成と資質向上に寄与することを目的として行われた。



■1日目（11月24日）

はじめに開講式を行い、^{いま}今浦千信^{うらちのぶ}全日本なぎなた連盟常務理事が挨拶に立ち、「本事業は、講習会やセミナーとは異なり、研修会です。研修会とは互いに高め合うことを目的としていますので、3日間、参加者同士が意見を出し合いながら共に学んでいきま



今浦 千信
全日本なぎなた連盟
常務理事

しょう」と述べた。次に^{さわとひでのり}沢登英徳日本武道館振興課長補佐が、「指導者の皆さんは、子どもたちや生徒に武道で何を伝えたいのか、なぎなたで何を学んでほしいのかということ、改めて見つめ直す3日にさせていただきたいと思います」と呼びかけ

た。最後に講師を代表して^{まつりりょうこ}松井亮子講師が、中学校教師、授業協力者、地域指導者の各指導者がこの研修会で目指すべき目標を述べた。

開講式終了後、今浦講師より、全日本なぎなた連盟におけるガバナンスコードの取り組み紹介や現状と課題、本研修会の果たす役割などを示すと共に、スポーツ庁による令和の日本型学校体育構築支援事業や部活動の地域移行について紹介した。将来展望として、理念と指導方針に沿った、社会に役立つ人材の育成を目標としていることを説いた。

続いて、大道場に場所を移し、「中学校武道必修化」に特化して、初心者から段位者が5人1組合同で、『指導者用ノート』に沿って1時間目から6時間目までの授業を今浦講師指導のもと実践した。1時間目のなぎなたの扱い方では、右手に持つ、腰骨につけるなど一つ一つ言葉にして伝える。また、物打ち同士が上手く合うためにはどうしたら良いか考えさせるために、生徒同士が教え、考え合い、認め合う時間を作ることが大切であるとアドバイスした。また、5時間目の「連続して受けてみよう」では、6時間目のテストに向け、打ち返しのペア学習を行った。最後に評価について、指導者は評価の基準をあらかじめ生徒に伝えておくこと。また、振り返りシートや自己評価表を活用することが重要であること。一方、授業協力者は最低限伝えるべきところを精査し、適確な言葉を選ぶことが重要であると指導上の留意点を示した。

■2日目（11月25日）



A班による防具を着けた相手に打ち返しの練習

目的別研修として、A班では初心者を対象に中学校武道必修化に特化した指導を行った。

はじめに、一对多数ができるようになることを目標に、どのような授業の組立、指導の進め方を目指すべきか、授業ノートの活用方法も含めて説明した。実技では、なぎなたの扱い方や打突のポイント、打ち返しの際の打突部位など、授業協力者が手本を示しながら指導した。

午前中の最後には、防具を着けた元立ちを相手に打突練習を行った。参加者は防具を着けた相手の打突部位を的確に捉えることの難しさを感じている様子であった。

午後は、振り返りやしかけ応じの確認、なぎなたを使ったウォーミングアップ、リズムなぎなたの紹介、すね当てを着けて打突の練習をした後、演技競技の試合に向けて、3段の参加者とペアを組み、しかけ応じの練習を行った。

試合では、3組が3コートに分かれてリーグ戦を行い、各組1位による決勝リーグを行った。短い練習時間だったが、どの組も演技者双方が呼吸と気持ちを合わせて、競技に臨んでいた。

一方、B班は、地域なぎなた指導者を対象に基本組班、しかけ応じ班、防具班の3班に分かれて実技研修を行った。



山本千代講師による防具班の指導風景

基本組班では、なぎなたの経験が浅い人を対象に「基本」を指導する際に気をつけることをテーマに行った。講師から、打突の際に力が入っていたら何度も行わせること。そして力が抜けてきた時に、一本でも正しい打ちに近いものがあれば褒めてあげ、正しい打突を体験させることが大切であるとアドバイスがあった。

しかけ応じ班では、八方振り、指揮法、しかけ応じ（1本目から8本目）を行った。

防具班は、基本打ちの見直しや指揮の号令のかけ方、八方振りの留意点、打突の示し方のまとめなどを確認した。号令のかけ方では、残心の際、気が抜けないように指揮者は号令をかけること。語尾をはっきりさせ、メリハリをつけるようにと指導があった。

夕食後の情報提供では、4班に分かれて自己紹介や各自の課題、質疑応答などを行った。

4・5段を対象とした班では、「今年度より外部指導者として指導しているが、指導の仕方が分からないので参加した」といった声や、「高校卒業時になぎなたを辞めていく子どもが多いので、続けてもらえるように言葉かけを大切にしている」といった声が挙がった。



情報提供：各班に分かれて自己紹介や課題等の発表

■3日目（11月26日）

A班では、研修期間中に練習した技を組み合わせ、「ジャンボリーミッキー」の音楽に合わせてリズムなぎなたを作成して練習した後、全参加者を前に成果を披露した。最後に全員で研修の集大成として一对多数を行った。

閉講式では、沢登振興課長補佐が代表者に修了証を授与し、講師代表として松井講師が講評を、今浦講師が主催者挨拶を行い、研修会の全日程を終了した。